



千八百七十八年七月四日發行
ヘラルド新聞抄譯

大藏省
翻譯課

日本海關稅改正論

3005



414
2354



日本海關稅改正論

和田信郎譯

大正十一年四月贈
大隈侯爵郵寄

日本政府ハ偏ニ各國公使ノ眼孔ヲ避ケ覘窺ヲ壅キ其旅出公使
 ヲレテ直ニ外國政府ニ依ラシメテ以テ其海關稅ノ改正ヲ囑ラ
 シト希望セルヲ我輩ハハケ月前世上ニ報道シタル所アリ蓋
 シ該政府ノ措置茲ニ出ルハ畢竟各國公使カ親シク此國ノ高業
 及テ實カ如何ヲ明知スルヲ以テ或ハ輒ク之ヲ果ス能ハサルヲ
 恐ルレハ也而レテ直ニ外國政府ニ依ルハ幸ニ此等ノ實情ヲ明
 知セサルヲ利スル所以ニシテ只管其改正ノ好結果ヲ求メント
 欲スルニ外ナラス試ニ今在苗ノ公使ニ依テ之ヲ成ラントナラ
 ハ公使ハ素ヨリ之ヲ処スルニ十分ノ洞暇ト知識アリト雖モ其
 見聞廣博ニシテ實地老成ノ功ナルヲ以テ決シテ日本政府ノ巧
 辯飾詞ニ誑誘セラルトナラハ言ハ俟ス且ツ夫レ公使ニ依ル

七
歳

其動モスハ新聞紙上噴ク諷刺諷語セラル、ノ恐アリト堂
氏直ニ外國ニ於テハ又嘗テ此ノ如キ患アルナレ
然リト堂氏我輩寧ニ思ヘラク日本政府斯ク伶俐ノ策ニ出テタ
リト堂氏其結果ニ至テハ必スシテ好運トモス如何トナレハ英
國ノ商業漸ク東洋地方ニ其勢ヲ得愈々熾ンナルニ乘シ漸然一
策ヲ籌画セシムルトアラハ蓋シ其害甚ク大ナレハ也況ンヤ各
國自カラ相率ヒテ之レク驥尾ニ附シ愈々之ヲ賛成セヨトスル
ニ於テヤ抑モ海關稅改正ノ如キ重大事件ニ至テハ先ツ英國主
トシテ之ニ關係スルヲ当然トス然ルニ虞ラサリキ英公使之ニ
與カラスシテ日本政府ハ單行獨立以テ之ヲ企圖シ又諸國ノ政
府ニ於テモ英國ニ関セスレテ之ヲ処セントスル所アルカ如シ
乃チ我輩嘗テ之ヲ道路ニ聞ク曩日較島君ノ佛國ニ駐在セル日
佛ノ外務卿「ウエツデングトン」氏ニ見ヘタリト我輩素ヨリ其面

會ノ例ニ何等ノ談アリレカハ明知マサレモ當時較島氏ヨリ日
耳曼政府ニ特ニ諮詢セル「ア」リレカ該政府ハ之ヲ「ハンボルク」
ノ高法會議所ニ付下セシテ以テ遂ニ其諮詢ノ何事ニ係レルカ
ヲ世上ニ傳播スルニ及ヘリ是ニ於テ其面晤ノ際果シテ稅則改
正ノ「一」関セルヲ稍々窺知スルヲ得タリ乃チ嘗テ我輩カ「ハン
ボルク」ノ一高會ヨリ得タル所ノ書アリ左ノ如シ

稅目

日本政府ハ稅權ヲ取戻サント嘗テ其為セル所ヲ密ニ秘シテ
洩サ、ルヤ久シ而シテ其所為往々世上ニ洩セルモノアリ右
唇ノ如キ是也今我輩此唇ニ就キ審查熟按スルニ其編制ノ粗莽
齟齬ニテ悉ク其当ヲ得サル而已ナラス日本政府ハ偏ニ得護稅
政策ノ邪道ニ惑溺スルヤ明瞭ニテ踏ルカ如シ蓋シ物件中特ニ

重税ヲ課収スル者ハ多クハ皆ル當國ノ消費物ニ非スヤ是
ヲ以テ此ノ如キ税則ハ當ニ之ヲ刪除シ更ニ制定ス可キ也而シ
テ我高法家ノ如キハ今回ノ改正ニ付敢々トシテ注視ニ怠タラ
ス新紙ニ藉テ罷マテ持論ヲ主唱スルヲ以テ己ノ任トセハ即チ
高運ノ旺盛ヲ課ル是ヨリ好キハナレ若レ夫レ此ノ如クセハ日
本政府及ヒ派出ノ公使ハ必ス之カ為ニ影響セラル、所アルベ
シ思フニ此税則改正ノ事ニ於ケルヤ廣ク輿論ニ伺ヒ然ル後之
ヲ確定セハ恐クハ其失誤ナカルベシ故ニ研究漸ク深キニ入レ
ハ随テ過失ノ患減スヘシ然リ而シテ今日誤テ之カ計ヲ失スル
所アラレメハ数年ヲ待ニ非サレハ敢テ復タ正タス能ハサルヘ
シ豈臆メサル可ケンヤ

